

+ 26 【どろどろ】

村芝居で『四谷怪談』をやるというので、ぼくは伊右衛門をやらせろとせがんだのですが、こどもじゃだめだというので諦めて、裏方をやらせてもらいました。

裏方にもいろいろあるのですが、ぼくの役割はお岩さんの顔を作るお手伝いでした。

粘土をこねて、接着剤を使ってすこしずつ、お岩さん役の隣のお姉さんのきれいな顔に貼付けるのです。

十回ばかり貼付けて、赤い絵の具を塗りたいくと、お岩さんの完成です。

隣のお姉さんの演技は、それこそ鬼気迫るもので、観客はみんな蒼くなっていました。

村芝居の大成功が約束されたので、ぼくはお手伝いが終わると、懐爺のところに行って自慢をしました。

「わしの、おいわさんづくりが、みごとなもんだから、しばいのおきやくさんは、ふるえあがった」

すると、懐爺はとつぜん、

「しまった」

と声を発しました。

「だいせいこうなのに、しまったはなかるう」

ぼくが不満の声をあげると、懐爺は舌打ちを繰り返して、

「わたしとしたことが、村芝居のことを、すっかり忘れていましたよ。

『四谷怪談』だけは絶対にやってはいけないと、前から世話人にはよく伝えておいたんですがね。みんなの要望もあって断れなかったのでしょう」

「よつやかいだんは、まずいんかの。よつやかいだんはおもしろいがのう」

「面白ければいいというわけではありません。昔から歌舞伎（かぶき）で『四谷怪談』をやる時、お岩さん役者が、お岩さんになってしまうという言い伝えがあります。【どろどろ】というおぼけが顔にはりついてしまうのです」

「いったえなんか、しんじなければええ。それに、むらしばいは、かぶきじゃねえ」

「そういうことならいいんですが。お岩さん役はだれでしょうか」

「おいわさんは、びじんじゃねえとできん。となりのおねえさんしかおるまい」

「しまった」

懐爺はまた声を発しました。

その声にはぼくはびびりました。

「となりのおねえさんが、そのまま、ほんもののおいわさんになっちゃうのかのう。【どろどろ】なんぞしらん。あれはわしがはりつけた、ねんどにすぎんがのう」

「とにかく、金ちゃん、隣のお姉さんの様子を見て来てください」

というわけで、ぼくはまた村芝居をやっている広場にもどりました。

村芝居は終わっていて、役者もみんな解散していました。

大道具係のお兄さんたちだけが、後始末をしていました。

「となりのおねえさんは、どこにいるのかのう」

ぼくはひとりのお兄さんに声をかけました。

するとお兄さんは険しい顔をして、

「金ちゃんよ、お岩さんにさ、変なもの貼付けたりしたじゃろ」

「ねんどじゃ。せっちゃくざいだって、すぐにはがれるやすものじゃ」

「それがさ、あのお岩さんの顔がよ、元にもどらんのよ」

ぼくも、しまったと声を発したかった。

「それで、となりのおねえさんは、どこじゃ」

「村医者のところさ行ったよ。あれは藪医者じゃから、たぶんなおらんよ」

ぼくは慌てて村医者のところへ駆け込みました。

村医者が首をひねっています。

「おかしいなあ、はがれないなあ」

「はがすきがないんじゃないんかのう」

ぼくは文句をいいました。

隣のお姉さんは啜り泣いています。

「この醜い凸凹（でこぼこ）が、お肌と一体になっていますからなあ」

「しゅじゅつせい。【どろどろ】をやっつけろ」

ぼくは村医者に命令しました。

とうぜん村医者は聞く耳を持っていません。

おそらく手術器具も持っていないのでしょう。

「もうええわい」

ぼくは隣のお姉さんの手を引っぱって、懐爺のところに連れていきました。

ごぞんじのように、ぼくにとって懐爺は、
友達であり、
仲間であり、
父親であり、
兄貴であり、
先生であり、
師匠であり、
神様であり、
仏様であり、
もちろん、医者であります。

「かいじいのちからで、なんとかしてくれんかのう」

ぼくは拝みました。

「わかりました。金ちゃんの頼みなら、何とかします」

さすがは懐爺。

懐爺は、隣のお姉さんの醜くなった顔をさすりながら、呪文（じゅもん）を唱えます。

どろどろどろどろやいやい
どろどろどろろんといけいけ
どろどろあっちさいけいけ
おいわさんにはつみはない
おねえさんにはつみはない
つみがあるのはいえもんよ
つみがあるのはなんぼくよ
なんぼなんでもつみはない

するとどうでしょう、隣のお姉さんの顔の粘土がどろどろと流れて、元のきれいなお姉さんの顔になりました。

お姉さんは手鏡で自分の顔をうつして、嬉し泣きしました。

ぼくももらい泣きしました。

お姉さんとぼくは抱き合って泣きました。

お姉さんはとてもいい匂いがして、ぼくはもうけたとおもいました。

それもこれも懐爺のおぼけ、じゃない、おかげ。

お姉さんが懐爺にお礼をいおうとすると、懐爺はもう祠の奥に消えていました。